

## 草地に侵入する雑草「エゾノギシギシ」の駆除方法

農業研究センター 草地畜産研究所

担当者：大村 誠

### 研究のねらい

エゾノギシギシは更新後7~8年以上経過した草地及び適正に管理されていない草地の裸地部分に侵入し、その後、旺盛な生育を続け株化し草地の荒廃を早める。

特に、阿蘇地域の気象条件はエゾノギシギシの最も繁茂しやすく、草地に侵入しやすい環境となっている。

そこで、数種の除草剤の比較検討を行い駆除方法を確立した。

### 研究の成果

- 1 一番草刈取り後散布での除草効果は、DPX水和剤(ハーモニー)が最も効果があった。
- 2 秋期刈取り後散布の越冬株に対しては、MDBA液剤(バンベルD)が最も効果があった。
- 3 一番草刈取り後に2ヵ年続けてDPX水和剤を散布した試験区では、100%近い除草効果があった。
- 4 一番草刈取り後にDPX水和剤、秋期刈取り後にMDBA液剤を散布した試験区でも100%近い除草効果があった。

### 普及上の留意点

- 1 両薬剤ともイネ科への選択性薬剤なのでクローバー等の豆科牧草には薬害がでる。
- 2 散布の際の留意点
  - (1) 両薬剤ともエゾノギシギシの葉から主に吸収されるので、葉が広がっている時の散布が効果的で、出穂してからの散布は効果が劣る。
  - (2) DPX水和剤は作用特性が接触型であり、散布の際は薬剤を十分に株にかける必要がある。
- 3 MDBA液剤は使川期限が秋期刈取り後に限定されている。

表1 一番草刈取り後 DPX 水和剤散布区

散布時期 及び調査 時期	DPX 水和剤散布 H6.6/15	DPX水和剤2						
		7/16	8/16	10/24	12/16	回目散布 H7.5/5	8/8	10/11
株数(株/10㎡)	15.7	0	0	1.3	0	1.2	0.4	0
除草率(%)		100	100	91.7	100	92.4	97.5	100

表2 秋期刈り取り後 MDBA 液剤散布区

散布時期 及び調査時期	MDBA 液剤散布 H6.11/15	12/16	H7.2.16	H7.5.6
株数(株/10㎡)	154.7	1.3	0.0	1.3
除草率(%)		99	100	99

表3 一番草刈取り後に DPX 水和剤、秋期刈取り後に MDBA 液剤散布区

散布時期 及び調査時期	DPX 水和剤 散布 H9.6/20	7/26	8/25	9/24	MDBA 液剤 散布 10/30	11/28
株数(株/10㎡)	57.6	2.3	5.2	8.2	9.7	0.2
除草率(%)		96	91	85.8	83.2	99.7

表4 エゾノギシギシ駆除マニュアル

	散布時期	薬量	希釈倍率 (希釈水量)	留意点
DPX 水和剤	一番草刈取り後	5g	20,000倍 (100L)	牧草刈取り後、エゾノギシギシの出穂前に散布する。 クローバー等の豆科牧草には薬害があるので注意する。 全面処理はブームスプレーヤ、部分処理は動力噴霧機による。
NDBA 液剤	秋期刈取り後	100ml	1,000倍 (100L)	